

看護ケアと工学

本学では2年次に「看護ケアと工学」の科目が設けられており、患者や家族だけでなく、ケアをする看護師にもやさしい看護ケアを学びます

工学的視点を看護ケアに活かす

「看護ケアと工学」では、看護の現場で実践されている「看護ケア」が看護の対象者や看護者自身の心身に与える影響について、看護学と工学の視点から探究することにより、【人にやさしいケア】を創造する能力を養うことを目標としています。

また、看護学部・工学部・情報工学部の教員が連携して授業を実施し、「リハビリテーションで活用できるロボット」「見守りシステムや健康モニタリングに活用できるセンシング技術」「安全な看護・医療のためのシミュレーターの開発・活用」「人の身体を守る皮膚保護剤」「脳波や筋肉の活動などの生体情報計測の基礎知識」「アイカメラによる看護師の視線の可視化」などについて学んでいます。



【メンタルコミットロボット パロ】
(NDソフトウェア株式会社)
とのふれあい体験



【移乗サポートロボット ハグ】
(株式会社FUJI) を使った
立ち上がり介助の体験

看護ケアと工学を学んで



看護学科2年 田口 菜里さん

看護ケアと工学の講義はとても新鮮でした。工学部と情報工学部の先生は実際の看護ケアを例にあげ講義してくださるので、どのようにしたら

【人にやさしいケア】を実践できるのかをしっかりと学ぶことができました。印象的だったのは看護や介護に用いるロボットについて学ぶことができたことです。ロボットと聞くと無機質な感じがしますが、メンタルコミットロボットのパロはふわふわした感触で癒されました。このようなロボットは患者だけでなく看護師にとっても精神的疲労の軽減として活用できると思いました。



研究構想の代表者の発表

講義で学修した看護学と工学の視点を取り入れて、【人にやさしいケア】の実施に向けた研究構想を発表しています。

看護ケアとユマニチュード

本学では1年次から4年次の4年間を通して、「ユマニチュードの技法」を取り入れた看護ケアを学びます。

ユマニチュードって？

ユマニチュードは、フランス発祥の知覚・感情・言語によるコミュニケーションに基づいたケア技法です。「あなたは大切な存在です」というメッセージを相手が理解できる形で伝えることにより、実践者や家族は、高齢者や意思疎通の図りにくい方々との良い人間関係が築けることを実感しています。本学では、ユマニチュードの歴史と哲学、ケア技法を体系的に学ぶ事ができ、考案者のひとりであるイヴ・ジネスト氏から教授いただく機会も設けています。



授業に取り組む様子



1年生～3年生では、ユマニチュードの歴史と哲学を学んだ後に、4つの柱である「見る」「話す」「触れる」「立つ」の技法と、相手との良い関係を結ぶための「5つのステップ」について、理論と実践を学びます。

授業では、ユマニチュード認定インストラクターの資格を持つ本学教員と研修を受講した専任教員、非常勤講師が学生指導にあたります。左の写真は、インストラクターの資格を持つ、本学の岡本恵里教授が指導をしている様子です。



4年生では、事例を用いた看護展開を行います。事例患者の全体像を看護の視点とユマニチュードの視点から捉え、その人の意向や価値観を尊重した援助方法について、グループで話し合います。授業最終日には、立案した援助方法について4年間の学びを活かしながらユマニチュードの技法を取り入れたロールプレイを行います。

左の写真は、患者の情報を書き出して全体を俯瞰することにより、関係性を整理している様子です。インストラクターの資格を持つ、本学の青柳寿弥准教授が指導しています。

看護学科 学生生活について 学生の声



看護学科 2年生 高木初奈さん

大学は看護を学ぶための設備が充実しており、技術を身につけるための学習環境が整えられています。また、授業では少人数によるゼミやグループ学修が取り入れられており、主体的に課題に取り組む力を身につけることができます。

優しい学生が多く、クラスの雰囲気も良いです。また、先生方もしっかりとサポートしてくださるおかげで、安心して楽しいキャンパスライフを送っています。

